

仕事の振り返りシート（令和 5 年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月2日

事業名	日本博物館協会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課		款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生化石館		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間	開始年度	S58	実施方法
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度	-	事業分類
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承				参画事業

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	日本博物館協会に加盟することにより、全国の博物館やその他の類似施設との会員相互の交流を深め、各種情報や協力を得ることで郷土博物館事業の発展を図る。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	館の運営について、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得る。また、関係博物館との連携・協力の緊密化を図る。
-------------------------	---

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
参画で情報を集められた館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
参画の意義を認める館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・市の活動 日本博物館協会に負担金(30千円)を支出し、機関誌等を収集する。 ・日本博物館協会の活動 全国大会・全国博物館長会議・指導者研究協議会・講演会等を開催し、『博物館研究』や『全国職員録』等を発行し、会員に提供している。
--------------------------	---

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
機関誌収集数	部	12	12	12
会議・研究会参加数	回	0	0	0
事業費計	千円	30	30	30
一般財源	千円	30	30	30
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	会議等には参加できなかったが、機関誌等から情報を得られた。
------------------	-------------------------------

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
参画で情報を集められた館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいくらい良い	効果は変わらない
参画の意義を認める館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいくらい良い	効果は変わらない

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 0指標
	効果は変わらない指標数 2指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果は変わらない

※ 10万円以上の増減により判断

効果			
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
費用は下がった			
費用の増減無し	○		
費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

他館の状況や活動・動向に関する情報が得られており、日本博物館協会に参画することは必要である。今後も会議等に参加し情報を得る。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明	
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	現状を維持する。

事業名	博物館協議会運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生化石館			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間	開始年度	S58	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度	-	事業分類	審議会等運営事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承					
			根拠法令、条例等					
			博物館法 佐野市博物館条例					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	博物館の運営に関し教育委員会の諮問に応じるとともに、意見を述べる機関である、佐野市博物館協議会を年2回開催する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	事業が円滑で効果的に実施できるように、博物館の運営に関して委員から貴重な意見や助言を聴く。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		意見・助言数	件	20	20	22	22	22

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	佐野市博物館協議会 ・第1回会議 10月26日開催 10人出席 ・第2回会議 3月19日開催 10人出席	活動指標	単位	R3	R4	R5
		会議開催回数	回	2	2	2
		事業費計	千円	84	99	106
		一般財源	千円	84	99	106
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	予定通り年2回会議を開催し、多くの意見をいただいた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		意見・助言数	件	19	20	21	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		○		
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果が上がった				

費用	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	
	費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

事業が円滑で効果的に実施できるように、委員から貴重な意見や助言をいただいております。今後も必要な機会である。今後も多くの委員に参加していただく。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
	現状を維持する。

仕事の振り返りシート（令和 5 年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月1日

事業名	郷土博物館 P C B 廃棄物処理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部			予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度のみ
	課	文化財課			郷土博物館 P C B 廃棄物		款	10	新規or継続	新規事業
	係	文化財保護係			処理事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称		根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			事業期間	開始年度	R5	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり				終了年度	R5	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	郷土博物館は昭和58年開館の施設であり、開館以来使用している受電設備等は老朽化している。さらに平成30年度の調査で低濃度 P C B (ポリ塩化ビフェニール)が使用されている変圧器が確認された。新しい機器と交換して、P C B 含有機器を適正に廃棄することにする。令和 4 年度に交換工事を実施し、令和 5 年度に P C B 含有機器を処分した。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	建物・機械設備等を維持・管理し、展示室や収蔵施設の最適環境を維持することで、利用者が、安全で快適に施設を利用できる環境を保つ。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		適切に収蔵される資料数/収蔵資料数	%			100		
		来館者数	人			20,000		

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R 5 年度に行った主な活動内容)	低濃度PCB含有機器（変圧器 1台）の運搬・処分	活動指標	単位	R3	R4	R5
		処分したPCB含有機器	台			1
		事業費計	千円	0	0	180
		一般財源	千円			180
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	R5新規事業	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		適切に収蔵される資料数/収蔵資料数	%			100	値が大きいほど良い	効果が上がった
		来館者数	人			19,270	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標	費用	費用は下がった	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		費用の増減無し			
	効果が下がった指標数	0指標		費用が増加した	○		
	指標全体	効果が上がった					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和5年度に完結した

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月2日

事業名	葛生化石館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生化石館			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間	開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承					
			根拠法令、条例等					
			博物館法 佐野市博物館条例					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	葛生化石館を運営するための事業。資料の整理・管理・学芸業務補助のため会計年度任用職員を任用する。また、事務用経費、ボランティア活動支援、展示用パネルや標本作製などを行っている。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	より多くの人に佐野市から豊富に産出される化石や鉱物などを通じ、自然科学について関心を持ってもらう。入館者に利用しやすい環境を整える。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		入館者数/市人口	%	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
		広報紙・情報誌等掲載回数	回	30	30	30	30	30

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・会計年度任用職員による資料管理・学芸業務補助 ・ボランティアによる事業・講座補助、勉強会、視察研修 ・パソコン及び周辺機器・デジタルフルカラー複合機の借上げ ・各種事務用消耗品の購入	活動指標	単位	R3	R4	R5
		入館者数	人	11,787	16,606	16,481
		収蔵資料数	点	2,149	2,201	2,230
		事業費計	千円	3,450	3,513	3,652
		一般財源	千円	3,422	3,453	3,584
		特定財源（国・県・他）	千円	28	60	68
		（うち受益者負担）	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	情報誌等掲載回数・入館者数ともに前年度より減少した。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		入館者数/市人口	%	10.1	14.4	14.4	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		広報紙・情報誌等掲載回数	回	41	44	39	値が大きいほど良い	効果が下がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	費用	費用は下がった	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標		費用の増減無し			
	効果が下がった指標数	1指標		費用が増加した			
	指標全体	効果が下がった					○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

情報誌等の取材に積極的に対応したが、掲載回数は目標を上回ったものの、入館者数ともに前年度より減少している。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 こまめなホームページ更新を心掛け、情報発信に努める。
---	--

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月2日

事業名	葛生伝承館空調設備整備事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度のみ
	課	文化財課		款	10	新規or継続	新規事業
	係	葛生伝承館		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業開始年度	R5	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり	事業終了年度	R5	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承				

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	葛生伝承館は平成16年に開館し、18年を経過し施設の計画的な整備が必要となってきた。特に空調設備については、資料の展示・保管の観点から閉館時も稼働させる必要があり、消耗は進んでいると思われる。また、施設の経年に伴い、修繕に必要な部品の調達が難しくなり、故障した際の対応ができなくなる可能性もあることから、空調設備の更新工事を行う。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	施設設備の円滑な管理、収蔵資料の良好な保存、展示環境の整備が図れる。来館者が不都合なく安全、快適に利用できる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		施設が安全で良好に使われた割合	%			100.0		

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	展示室・収蔵庫の空調設備の更新	活動指標	単位	R3	R4	R5
		更新した空調設備	台			6
		事業費計	千円	0	0	8,613
		一般財源	千円			
		特定財源（国・県・他）	千円			8,613
		（うち受益者負担）	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	令和5年度新規事業	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		施設が安全で良好に使われた割合	%			100.0	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		※ 1 0 万円以上の増減により判断			効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	費用	費用は下がった	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		費用の増減無し			
	効果が下がった指標数	0指標		費用が増加した			
	指標全体	効果が上がった					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和5年度に完結した

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
--	------

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月1日

事業名	郷土博物館指定管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰返し
	課	文化財課		郷土博物館指定管理事業		款	10	新規or継続	新規事業
	係	文化財保護係				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称	根拠法令、条例等	目	5	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	佐野市博物館条例	事業期間	開始年度	R5	実施方法	指定管理者
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度		事業分類	施設維持管理事業	
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	郷土博物館において、運営の効率化、新視点での企画・展示及び柔軟で充実した職員配置などを実現することにより、来館者の増加や魅力度の向上を図るために、令和5年4月1日から、指定管理制度を導入する。 仕様の中で規定した業務に関するものについては指定管理料で一括で委託するが、市が行う業務（5万円以上の修繕費や火災保険料など）については、市が予算化し業務を行う。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	運営の効率化、新視点での企画・展示、柔軟で充実した職員配置を図り、来館者の増加、魅力度の向上、基本構想に則った館機能の実現、市民の歴史・文化への理解向上	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		年間来館者数	人			19,270	20,000	20,000
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%			95.0	95.0	95.0

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	企画展開催 4回 学校利用促進事業 講座 9メニュー	活動指標	単位	R3	R4	R5
		企画展開催数	回			4
		学校利用 来館児童数	人			2,626
		事業費計	千円	0	0	34,517
		一般財源	千円			34,205
		特定財源（国・県・他）	千円			312
		（うち受益者負担）	千円			312

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	令和5年度 新規事業	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		年間来館者数	人			19,270	値が大きいほど良い	効果が上がった
		佐野市の伝統文化や文化財を大切にしたいと思う市民の割合	%			87.7	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標	費用	費用は下がった	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		費用の増減無し			
	効果が下がった指標数	0指標		費用が増加した	○		
	指標全体	効果が上がった					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月1日

事業名	郷土資料保存三好館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰返し
	課	文化財課		郷土資料保存三好館運営		款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係		事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H16	実施方法	一部委託
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度		事業分類	施設維持管理事業	
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	郷土資料保存三好館を公開して郷土の歴史・民俗等に関する資料を保護活用し、郷土意識の高揚をはかることを目的とする。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	地元自治会との協働により、三好館の管理運営を行い、見学者の利便を図るとともに、地域の歴史と伝統を再認識していただき、郷土への愛着を育ててもらふ。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		開館日数／開館予定日数	%	100	100	100	100	100
		来館者数	人	100	100	100	100	100

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・管理運営業務を三好地区町会長に委託 ・戸室・船越・岩崎地区のボランティア6人が交代で開館業務を行う。 ・定時開館：毎月第2・第4日曜日	活動指標	単位	R3	R4	R5
		開館日数	日	20	24	24
		延べボランティア従事者数	人	40	48	48
		事業費計	千円	160	191	191
		一般財源	千円	160	191	191
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	予定通り開館できた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		開館日数／開館予定日数	%	83	100	100	値が大きいくらい良い	効果は変わらない
		来館者数	人	50	53	30	値が大きいくらい良い	効果が下がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	費用	費用は下がった	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標		費用の増減無し			
	効果が下がった指標数	1指標		費用が増加した			
	指標全体	効果が下がった					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

入館者は前年度比では減少してしまった。地元と協力しながら、PRや展示資料の改善等、入館者が増える手法を検討したい。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月1日

事業名	田中正造旧宅一般公開支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	文化財保護係			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称	事業期間	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		開始年度	H16	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度		事業分類	支援事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	小中町にある田中正造旧宅（栃木県指定史跡）の適切な保存と一般公開を図り、佐野市が誇る歴史的人物である田中正造翁の偉業を市内外に広く伝えるため、旧宅の維持管理及び一般公開を行っている（一財）小中農教倶楽部に対して補助金を交付する他、説明ボランティア団体育成のための支援を行う。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	田中正造翁の偉業を認識してもらい、誇れる郷土の歴史を正しく理解し後世に伝えるため、田中正造旧宅一般公開事業の円滑な運営と財政の健全化、及び説明ボランティア団体の養成を支援する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		年間入場者数	人	612	861	1,548	1,800	2,000
		ボランティア従事者数	人	14	14	14	20	20

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 (一財) 小中農教倶楽部への管理運営費補助金及び入場料補助金の交付事務、県指定文化財「田中正造旧宅」の維持管理、現状変更等に関する指導及び助言、県との連絡調整。 【一般財団法人小中農教倶楽部の活動】 年2回の役員会、年1回の田中正造翁、カツ子夫人法要の実施、田中正造旧宅の一般公開、田中正造旧宅の維持管理 【共催】 説明ボランティア団体視察研修	活動指標	単位	R3	R4	R5
		開館日数	日	174	203	205
		説明ボランティア団体視察研修回数	回	0	0	1
		事業費計	千円	741	978	941
		一般財源	千円	741	978	941
		特定財源（国・県・他）	千円			
		(うち受益者負担)	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	コロナ渦も明け、入場者数も戻りつつある。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		年間入場者数	人	612	861	1,548	値が大きいほど良い	効果が上がった
		ボランティア従事者数	人	14	14	14	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断			効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	費用	費用は下がった	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標		費用の増減無し	○		
	効果が下がった指標数	0指標		費用が増加した			
	指標全体	効果が上がった					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

説明ボランティア従事者数は横ばい状態になっている。研修等の支援を継続し、新規希望者の確保等、ボランティア活動の充実のため、協力していく。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和 5 年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月2日

事業名	葛生化石館維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課		葛生化石館維持管理事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生化石館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	博物館法 佐野市博物館条例	事業期間	開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	葛生化石館の施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供し、化石館で収集・保管・展示する貴重な資料の保存を図る。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	施設・設備・収蔵資料の良好な維持管理を図る。入館者が都合なく安全に利用できる。
-------------------------	---

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
施設トラブル件数	件	0	0	0	0	0
適切な収蔵資料件数/収蔵資料総数	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・照明器具等維持管理のための消耗品の購入 ・常設展示物動産保険の加入 ・くん蒸の実施（年1回） ・空調設備の保守点検の実施（年2回） ・公用車の維持管理
--------------------------	--

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
くん蒸回数	回	1	1	1
保守点検回数	回	2	2	2
事業費計	千円	2,355	1,485	2,916
一般財源	千円	2,355	1,485	2,916
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	施設トラブルもなく良好に管理している。
------------------	---------------------

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
施設トラブル件数	件	0	0	0	値が小さいほど良い	効果は変わらない
適切な収蔵資料件数/収蔵資料総数	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいくほど良い	効果は変わらない

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 0指標
	効果は変わらない指標数 2指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果は変わらない

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		
費用の増減無し		
費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

空調設備修繕工事を行ったため費用が増加した。施設が老朽化しているため、施設トラブルがないようこまめに点検を行う。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明	
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	現状を維持する。

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月2日

事業名	葛生化石館企画展等開設事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課		款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生化石館		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称	目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間	開始年度	H14	実施方法
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり	終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承				
			根拠法令、条例等				
			博物館法 佐野市博物館条例				

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	常設展とは別に、短期間で自然や化石・地質に関することを企画・展示する。これはテーマごとに深く掘り下げて知的好奇心を刺激するため、保管する収蔵品や他館の資料を借用して行う。また、企画展の関連講座を実施する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	より多くの人に佐野市から豊富に産出される化石や鉱物などを通じ、自然科学について関心を持ってもらう。
-------------------------	---

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
企画展開催期間中入館者数/市人口	%	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
期間中入館者数前年度対比	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・企画展「ペルム紀という時代」展 7月15日(土)～11月23日(木・祝)(112日間) ・企画展「第18回新着標本展」 令和6年1月13日(土)～3月31日(日)(66日間) ・企画展開連講座 講演会 「失われた魅惑のペルム紀世界『前恐竜時代』を語る」 10月22日(日) 講師：サイエンスライター土屋健氏、挿絵画家かわさきしゅんいち氏
--------------------------	---

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
企画展開催期間中入館者数	人	9,916	13,721	12,092
企画展の内容に満足した入館者/アンケート回答者	%	93.2	94.0	97.9
講演会参加者数	人	0	45	35
事業費計	千円	208	133	119
一般財源	千円	208	133	119
特定財源（国・県・他）	千円			
(うち受益者負担)	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	企画展開催期間中入館者数・講演会参加者ともに前年度より減少した。
------------------	----------------------------------

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
企画展開催期間中入館者数/市人口	%	8.5	11.9	10.5	値が大きいほど良い	効果が下がった
期間中入館者数前年度対比	%	139.8	138.4	88.1	値が大きいほど良い	効果が下がった

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 0指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 2指標
	指標全体 効果が下がった

※ 10万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		
費用の増減無し		○
費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

例年同様、企画展を年2回開催したが、企画展開催期間中入館者数・講演会参加者数ともに前年度から減少した。しかし、企画展の内容に満足した方の割合は増えている。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

取組説明	
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	企画展等の内容をホームページ等で詳しく紹介する。

事業名	葛生化石館講座等開設事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課		葛生化石館		款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生化石館		講座等開設事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	博物館法 佐野市博物館条例	事業期間	開始年度	H14	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	生涯学習の場として、子供から大人まで利用していただけるような体験講座等を企画開催する。受講者は広報・HP等を通じて募集する。また、出張講座を希望する学校等に出かけて講座を実施する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民の文化教養を高め、学習意欲の向上を目指す。より多くの人に佐野市から豊富に産出される化石や鉱物などを通じ、自然科学について関心を持ってもらう。
-------------------------	--

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
受講者数/市人口	%	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
受講者数前年度比	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・地質の日記念事業「化石とあそぼう」 5月14日(日) ・化石の日記念事業「化石とまなぼう」 10月15日(日) ・化石採集教室 7月26日(水)、11月23日(木・祝) ・ジオウォーキング 11月3日(金・祝)、3月20日(水・祝) ・出張講座を実施
--------------------------	--

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
受講者数	人	267	656	842
自主講座開設数	回	3	6	6
出張講座数	回	3	8	9
事業費計	千円	57	102	40
一般財源	千円	34	43	0
特定財源（国・県・他）	千円	23	59	40
(うち受益者負担)	千円	23	59	40

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	受講者数が前年度より増え、市民に対する割合も増えた。
------------------	----------------------------

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
受講者数/市人口	%	0.2	0.6	0.7	値が大きいほど良い	効果が上がった
受講者数前年度比	%	95.0	245.7	128.4	値が大きいほど良い	効果が下がった

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 1指標
	指標全体 効果は変わらない

※ 10万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		
費用の増減無し	○	
費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

受講者数・市民に対する割合ともに増え、自然科学に関心を持ってもらえた。出前講座はできるだけ行う。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明	
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	現状を維持する。

事業名	葛生伝承館維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰返し
	課	文化財課				款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生伝承館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H16	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	葛生伝承館の施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供する。
------	----------------------------------

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	施設を安全で良好に維持管理する。入館者が不都合なく安全に利用できる。
-------------------------	------------------------------------

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
施設が安全で良好に使われた割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・清掃業務委託、機械警備業務委託 ・くん蒸の実施（年1回） ・空調設備、消防設備の保守点検の実施（年2回） ・建物損害共済保険の加入
--------------------------	---

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
くん蒸回数	回	1	1	1
保守点検回数	回	4	4	4
修繕件数	件	1	1	0
事業費計	千円	4,162	4,318	3,888
一般財源	千円	4,162	4,318	3,888
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	施設点検をこまめに行い、修繕もなく良好に管理している。
------------------	-----------------------------

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
施設が安全で良好に使われた割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいほど良い	効果は変わらない

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用は下がった
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 0指標
	効果は変わらない指標数 1指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果は変わらない

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果			
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
費用は下がった	○		
費用の増減無し			
費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

施設が老朽化しているので、施設トラブルがないようこまめな点検を行う。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明	
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	現状を維持する。

事業名	葛生伝承館運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課			款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生伝承館			項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間	開始年度	H16	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承					
			根拠法令、条例等					
			博物館法 佐野市博物館条例					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	葛生伝承館を運営するための事業。資料の収集整理・管理・学芸業務補助のため会計年度任用職員を任用する。また、収集資料の修繕や受付業務の委託、調査などに係る旅費、事務用経費、展示品の修繕などを行っている。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	展示資料を見学することにより地域の伝統・文化を知ってもらう。入館者に利用しやすい環境を整える。
-------------------------	---

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
入館者数/市人口	%	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・会計年度任用職員による事務・施設管理・受付業務補助 ・受付業務委託 ・パソコン及び周辺機器・デジタルフルカラー複合機の借上げ ・各種事務用消耗品の購入
--------------------------	---

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
入館者数	人	5,404	5,929	6,023
収集資料数	点	791	851	893
事業費計	千円	6,412	6,488	7,295
一般財源	千円	6,405	6,479	7,278
特定財源（国・県・他）	千円	7	9	17
（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	入館者数が前年度より増え市民に対する割合も増えた。
------------------	---------------------------

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
入館者数/市人口	%	4.6	5.1	5.3	値が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※ 10万円以上の増減により判断

効果			
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用	費用は下がった		
	費用の増減無し		
	費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

入館者数・市民に対する割合ともに増え、地域の伝統・文化を知ってもらえた。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明	
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	現状を維持する。

仕事の振り返りシート（令和 5 年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月2日

事業名	葛生伝承館企画展等開設事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課		葛生伝承館		款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生伝承館		企画展等開設事業		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	博物館法 佐野市博物館条例	事業期間	開始年度	H16	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり		終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業	
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	県指定有形民俗文化財「吉澤人形頭」、県指定無形民俗文化財「牧歌舞伎」関連資料を中心に、佐野市に伝わる神楽・歌舞伎・節句人形などの伝統芸能や民族資料を企画展で展示・紹介する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	多くの優れた佐野市の文化や芸能に関する資料を集め、より多くの人に鑑賞してもらえるようにする。
-------------------------	--

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
企画展開催期間中入館者数/市人口	%	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
期間中入館者数前年度対比	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・「雛人形展」 4月1日(土)～4月6日(木)〔5日間〕 ・「節句の祝展」 4月22日(土)～6月18日(日)〔50日間〕 ・「牧歌舞伎展」 7月11日(火)～9月24日(日)〔66日間〕 ・「佐野土鈴展」 10月7日(土)～1月21日(日)〔72日間〕 ・「雛人形展」 2月6日(火)～3月31日(日)〔47日間〕
--------------------------	--

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
企画展開催期間中入館者数	人	5,404	5,929	6,023
企画展開催期間日数	日	213	254	240
企画展の内容に満足した入館者/アンケート回答者	%	72.1	83.8	89.5
事業費計	千円	208	157	171
一般財源	千円	208	157	171
特定財源（国・県・他）	千円			
(うち受益者負担)	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	企画展開催日数は前年度より減少したが、期間中入館者数は増加した。
------------------	----------------------------------

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
企画展開催期間中入館者数/市人口	%	4.6	5.1	5.3	値が大きいほど良い	効果が上がった
期間中入館者数前年度対比	%	157.9	109.7	101.6	値が大きいほど良い	効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 1指標
	指標全体 効果は変わらない

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		
費用の増減無し	○	
費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

企画展開催期間中入館者数が増え、より多くの人に鑑賞してもらえた。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り） 現状を維持する。

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月2日

事業名	葛生伝承館講座等開設事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	教育部	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	文化財課		款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生伝承館		項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称	目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間	開始年度	H16	実施方法
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり	終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承				
			根拠法令、条例等				
			博物館法 佐野市博物館条例				

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	生涯学習の場として、子供から大人まで利用していただけるような体験講座等を企画開催する。受講者は広報・HP等を通じて募集する。また、出張講座を希望する学校等に出かけて講座を実施する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	郷土に関わりのある伝統・文化・芸能に対し、興味を持ってもらう。
-------------------------	---------------------------------

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
講座を面白いと感じた参加者/アンケート回答者	%	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・こどもの日 民話語り 5月5日(金・祝) ・びゅんびゅんごまを作ろう 8月3日(木) ・羽子板を彩ってみよう 12月6日(水)・13日(水) ・出張講座を実施
--------------------------	---

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
受講者数	人	25	85	147
講座開設数	回	1	3	4
事業費計	千円	1	0	8
一般財源	千円	1	0	8
特定財源（国・県・他）	千円			
(うち受益者負担)	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	受講者数は前年度より増加し、面白いと感じた参加者の割合も増えた。
------------------	----------------------------------

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
講座を面白いと感じた参加者/アンケート回答者	%	83.3	90.7	93.1	値が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※ 10万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		
費用の増減無し	○	
費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

講座の受講者数・講座を面白いと感じた参加者の割合ともに増え、郷土に関わりのある伝統・文化・芸能に対し興味を持ってもらった。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 現状を維持する。
--	----------------------

事業名	栃木県博物館協会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	教育部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰返し
	課	文化財課		栃木県博物館協会参画事業		款	10	新規or継続	継続事業
	係	葛生化石館				項	4	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	232	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	博物館法 佐野市博物館条例	事業期間	開始年度	S58	実施方法	直営
	政策	3	歴史・文化を守り育てるまちづくり			終了年度	-	事業分類	参画事業
	施策	2	歴史・文化資源の保存と継承						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	栃木県博物館協会で開催される研究会・研修会・視察・見学会等に積極的に参加することによって、会員相互の交流を深め各種の情報や協力を得ることで郷土博物館事業の発展を図る。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	館の運営について、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得る。また、教育普及活動及び展示等に関する技術の向上を図る。
-------------------------	---

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
参画で情報を集められた館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
参画の意義を認める館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・市の活動 栃木県博物館協会に負担金(5千円)を支出。 ・栃木県博物館協会の活動 総会・研究会・講演会・視察研修会を開催し、機関誌を発行している。
--------------------------	--

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
機関誌収集数	部	1	1	1
会議・研究会参加数	回	0	0	2
事業費計	千円	5	5	5
一般財源	千円	5	5	5
特定財源（国・県・他）	千円			
(うち受益者負担)	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	会議等に参加し情報が得られた。
------------------	-----------------

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
参画で情報を集められた館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいくほ良い	効果は変わらない
参画の意義を認める館職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	値が大きいくほ良い	効果は変わらない

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 0指標
	効果は変わらない指標数 2指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果は変わらない

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果			
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
費用は下がった			
費用の増減無し	○		
費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

他館の状況や活動・動向に関する情報が得られており、栃木県博物館協会に参画することは必要である。今後も会議等に参加し情報を得る。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明	
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	現状を維持する。